

セルビアの修道院

いちばん有名なフレスコ画、ミレシエヴァ修道院の「白の天使」（「ハリストスの墓の携香女」部分）。1963年、ヨーロッパからアメリカへの挨拶として、最初の衛星ビデオ中継でこのフレスコ画像が送信され、のちには宇宙にも発信された。

セルビアには200を超える修道院があり、そのうち54の修道院が文化財に指定されています。また、UNESCO世界文化遺産に登録されたものには、**スタリ・ラス遺跡**と**ソボチャニ修道院**、**ストゥデニツァ修道院**、**コソヴォ・メトヒヤ地方の修道院群**、すなわち**デチャニ修道院**、**グラチャニツァ修道院**、**ペーチ総主教座修道院**、**リュエヴィシャ生神女聖堂**があります。これらの修道院は、最高の文化的、精神的価値があるとして、ヨーロッパおよび世界の永遠の遺産とみなされています。

修道院は深い森に囲まれ、そびえたつ断崖のふもとや、山の清流のみもとにひっそりと建ち、修道生活の平安を護っています。そこには石の塁壁に囲まれて、食堂(じきどう)や宿坊や宝物殿があります。しかしセルビアの修道院は、歴史を通じて、外界から孤立していたわけではありません。常に多くの人たちが集う場所であり、今日も、その扉はすべての善意の訪問者に開かれています。

中世では、ヨーロッパの文化は教会の保護のもとに発達しました。祈りと礼拝の場は、民族の拠り所となり、教育と文化の場となったのです。セルビアの王たちも教会の役割と意義をさとり、ネマニッチ王朝の時代から、たくさんの修道院を創建しました。崇高なるものを求め、国の将来を考え、豪華な宮殿のかわりに修道院を建てたのです。聖堂は寄進者の信仰の深さ、精神的なものへの憧憬を物語ると同時に、その時代の創造的エネルギーを表しています。

jp.serbia.travel

スタリ・ラス
東西のはざまで

ソボチャニ修道院

13世紀にビザンチン帝国が衰退すると、ネマニヤの後継者たちはその機会をとらえてセルビア国家と文化のアイデンティティを確立しようとした。ネマニヤの次男ステファンはジチャ修道院で王冠を授けられて戴冠王を名乗り、セルビア正教会の初代大主教となった三男のサヴァは、ジチャ修道院をセルビア独立教会の大主教座と定めました。こうして修道院は、教会と国家の結合という中世キリスト教会の理想を体現し、セルビア人の歴史の貴重なページが修道院で記されることになるのです。

13世紀のセルビアは、東と西、北と南を結ぶ交通の要衝にあり、周辺の国々のさまざまな影響を受けながら、ラシカ派と呼ばれる独自の芸術様式を創造します。それは西方のロマネスク様式と東方のビザンチン様式の芸術を融合することによって生み出されました。その見事な結晶が**ストゥデニツァ修道院**の生神女聖堂で、その外壁を見ると、大理石のファサードの装飾や扉や窓などの開口部の彫刻にロマネスクの精神があふれていますが、一歩なかに入ると、そこはビザンチンの世界で、内壁に描かれたフレスコ画は驚くほどの美しさを示しています。

ミレシエヴァ修道院の「白の天使」は、調和と古典的な美の理想とにもとづくラシカ派の美術の好例です。この様式は、少し遅れて建てられた**ソボチャニ修道院**のフレスコ壁画で完成します。ソボチャニに見られる荘重で明朗な図像は、精神的な美と威厳のある表現に満ちています。これは古代ギリシャ芸術の理念であり、人間の本性の美しさを称えるルネッサンスの精神の表れともいえます。ソボチャニは、いわば中世セルビアのシスティナ礼拝堂なのです。

セルビアがゴシック様式に触れるのは、アンジェイ家のイェレナのおかげだといわれます。イェレナはフランスの姫君で、セルビア王ウロシュ一世に嫁ぎ、歴代の王妃のなかではいちばん人気がありました。慈善事業に力をつくし、セルビアでは女性としてはいじめて修道院の創建者にもなりました。イェレナ妃の寄進になる**グラダツツ修道院**は、ストゥデニツァを手本にして建てられていますが、フランス・ゴシックの要素も随所に見られます。

ストゥデニツァ修道院

ジチャ、ステッパデニツァ、グラダツツ、ジュルジュヴィ・ストゥップグヴィ、ソボヤニヤなどの修道院を訪ねると、それはまたTRANSROMANICA、すなわちロマネスクの道を旅することになる。ヨーロッパのロマネスクの遺産を広く紹介するために指定されたルートで、セルビアの修道院は、ヨーロッパ文化遺産へのオリジナリティーに富んだ貢献が認められ、その欠かせぬ部分となっている。

jp.serbia.travel

コソヴォ・メトヒヤ地方
セルビア帝国の興隆

ペーチ総主教座修道院

14世紀の初頭、ミルティン王は首都をコソヴォのブリズレンに移し、南に向けて、ビザンチン帝国の領土の征服という大事業に着手します。和平の保証としてビザンチンの宮廷は、シモン・ダ・ペーチェからミルティン王に嫁がせますが、それとともに帝都コスタンティノポリスからセルビアにビザンチンの学問や宮廷儀礼、服飾や食文化がもたらされました。ビザンチン宮廷と直接に接触することで、セルビアの文化は大きく変化しました。

ミルティン王はその生涯に40を超える教会や修道院を建てました。コンスタンティノポリスやテサロニケの有名な建築士がコソヴォ各地に聖堂を建設します。正方形の内部に十字形の平面図をもち、1ないし5の円蓋を戴き、外壁は石とレンガを何層にも積み上げて美しく装飾された聖堂。この様式の最高傑作が**グラチャニツァ修道院**の主聖堂で、優雅で崇高な建築となっています。ここには宇宙像としての聖堂というビザンチンの構想が完璧に実現されています。ミルティン王は、ビザンチン屈指の画工ミハイロとエフティヒヤを招き、自らが寄進した聖堂にフレスコ画を描かせました。ふたりの名工が**リュエヴィシャ生神女聖堂**をはじめとする王の聖堂の内壁に描いたフレスコ画は、同時代のコンスタンティノポリスの最も美しいとされる作品にひけをとりません。

ミルティン王の死後も南方への領土拡張は続けられ、それとともに領主や聖職者の勢力も大きくなり、新たな寄進者として、ますます多くの修道院を建設するようになりました。**ペーチ総主教座**は国の精神的な中心でしたが、セルビア国家が最も繁栄した時代を代表しています。ステファン・ドゥシャン王がこのペーチで帝冠を授けられ、セルビアは帝国となったのです。ドゥシャン大帝の広大な帝国では、修道院が教育と文化の大切な担い手となりました。修道院では典礼書が翻訳され、写本がつくられたほか、学校がひらかれ、立派な図書館もおかれました。ドゥシャン大帝が父ステファン・デチャンスキーの遺志を継いで完成させた**デチャニ修道院**には、有名なイコン工房がありました。

コソヴォ・メトヒヤ地方は現在、国連安全保障理事会決議1244にもとづき、国連暫定行政機関UNMIKの管理のもとにあります。

オヴチャル・カブラル峡谷修道院群
セルビア文化の避難所

聖三位一体修道院

絵のように美しい西モラヴァ川の峡谷。オヴチャル山とカブラル山の険しい山麓に、ユニークな修道院の一群があり、セルビアの聖山アトスと呼ばれています。14世紀から15世紀にかけて、オスマン・トルコ帝国がセルビアを支配下においた激動の時代に建てられました。トルコ軍の追跡を逃れたセルビアの修道士たちは、この谷間にこの世から隔絶した静かな場所を見つけ、修道院を建てはじめます。言い伝えによると、この狭い地域に40以上の修道院があったといいますが、現在も残っているのは**ブラゴヴェシターニェ(生神女福音)修道院**、**ヴァグデーニェ(生神女奉獻)修道院**、**ヴァスネセーニェ(ハリストス昇天)修道院**、**聖イリヤ修道院**、**聖ヨヴァン修道院**、**聖ニコラ修道院**、**ブレオブラジュニェ(ハリストス顕栄)修道院**、**スレーデニェ(ハリストス迎接)修道院**、**ウスペーニェ(生神女就寝)修道院**、**聖三位一体修道院**の10か所です。これらの修道院は何世紀ものあいだ、正教の精神とセルビア人の民族意識を護り伝える場でしたが、トルコ軍に追われて峡谷や周辺の洞窟に身をひそめる避難民たちの隠れ家でもありました。セルビアの聖山では、最も困難な時期にあっても、文化や芸術が途絶えることはありませんでした。16世紀には、写本工房があり、聖堂はフレスコ画で飾られ、イコンが描かれ、貴重な祭儀用具が制作されていました。

jp.serbia.travel

モラヴァ川のセルビア
ヨーロッパの防壁として

マナシア(レサヴァ)修道院

強大な中世セルビア帝国は、ドゥシャン大帝の死をもって終わりを告げました。トルコのバルカン進出にもなつて国家の中心は北に、モラヴァ川の流域へと移っていきます。ラザル公とその子ステファン専王の国家では、混乱した政治環境にもかかわらず、文化が豊かに花を開かせます。14世紀最後の10年から15世紀の前半までの期間は、イスラム勢力の侵攻でほとんど戦火の熄むときがなく、修道院もまた要塞化しました。**ラヴァニツァ修道院**や**マナシア修道院**は、トルコの攻撃を防ぐために、高い塔をもった堅固な塁壁に囲まれています。修道院の塁壁のなかで、セルビアは文化によって敵に対抗したのでした。それが最後の防衛線でした。ステファン専王はトルコに征服された国々から学者や作家、芸術家を迎えて保護しました。マナシア修道院ではレサヴァ派写本工房が活動し、専王その人もこの修道院で、セルビア中世文学の生んだ珠玉の詩編といわれる名作『スロヴォ・リュブリェ(愛の歌)』を著しました。

モラヴァ川流域にある**ラザリツァ聖堂**、**ラヴァニツァ修道院**、**リュボステイニヤ修道院**、**カレニツァ修道院**は、装飾的な彫刻に力点をおいた、モラヴァ派と呼ばれる新しいタイプの教会建築の典型です。扉や窓の枠、薔薇窓や迫切などに植物文様や奇怪な動物や人間のみごとな石彫装飾が見られます。モラヴァ派の装飾彫刻はそれで見られなかった現象で、この時代の創造力の強さを物語っています。

モラヴァ派のフレスコ壁画は、ビザンチン絵画の偉大な伝統の最後の輝きであるといえます。マナシア修道院やカレニツ修道院の高貴で貴族的な絵画には、抒情的な雰囲気や繊細な感覚が感じられます。美しい衣裳、高価な装身具、杯の輝き、当時流行の風変わりな頭巾。モラヴァ派の聖堂の内壁は、時代精神を知るための貴重な史料でもあります。その輝かしい時代はやがて、1459年、スメデレヴォ城が陥落し、セルビア中世国家が滅亡して終焉を迎えました。

修道院の多くは中世に創建され、現在もお活動をつづけています。そこには修道士たちが住み、古くから伝わる修道規定にしたがって神に祈り、労務にはげむ生活をしています。ですから、修道院は、精神的なものと肉体的なものとの結合と調和がもたらす平安と喜びに満たされているのです。ギリシャの聖山アトスからロシアまで、正教会の修道士は客をもてなすことで知られています。セルビアの修道院を訪れる皆さまも、深く迎え入れることでしょう。修道士の労務の果実は、書物、イコン、数珠のような精神的なものから、蜂蜜、ワイン、薬草、織物といった実用的なもので、さまざまです。セルビアの修道院に足を踏み入れたとたんに、この世の喧騒をのがれ、「過去」の思づく時間に入身をおき、「永遠」はけつて遥かなものではないことを体感されるでしょう。

jp.serbia.travel

フルシュカ・ゴーラ
セルビアの聖山

ラヴァニツァ修道院(ヴルドニク)

スレム地方のフルシュカ・ゴーラの丘は、自然の美しさや上質のワインをつくるぶどうの栽培で知られていますが、もうひとつの魅力は山麓に点在するたくさんの修道院です。修道院の建設は1690年のセルビア人の大移動にはじまるといわれます。トルコの迫害を受けたセルビア人は、当時ハンガリー領であった地域に大挙して移住し、ここに安住の地を見出したのです。フルシュカ・ゴーラもよく聖山アトスにたとえられます。たくさんの修道院が建てられ、カルロヴツィの町には正教会の府主教座もおかれて、異郷に逃げてきたセルビア人の精神的な支えになったからです。以来、フルシュカ・ゴーラの修道院は、セルビア人の精神と文化を護り伝えてきただけでなく、政治の重要な中心として、オスマン・トルコ帝国への民族的抵抗の象徴ともなりました。

クルシェドル修道院、ヴルドニク修道院、ノヴォ・ホボヴォ修道院などを見ると、西ヨーロッパの文化に触発されて、新しい芸術が生まれた様子わかります。このフルシュカ・ゴーラでバロック様式がはじまり、セルビア初の印刷所がつくられ、銅版画が制作されました。主聖堂の傍らに新たに高く華麗なバロック様式の鐘楼が建てられ、内部には豊かな木彫の施されたイコノスタシス(聖幛)がおかれました。そこには、当時一流のセルビア人の画家の描いたイコンがはめ込まれています。西ヨーロッパの文化に門戸をひらくとともに、ネマニッチ王朝の黄金時代への追憶もいきよとよみがえり、近代と伝統がひとつとなって、セルビア・バロックと呼ばれる独特の様式が生まれます。今なおフルシュカ・ゴーラに残る17の修道院は、セルビアの文化史上、きわめて重要な遺産なのです。

jp.serbia.travel

セルビア観光局

セルビア

無償配布

修
道
院
ス
ツ
プ

セルビア観光局
日本語版初版 2014年
印刷 印刷所 glashnik
地図の作成者 Markovic, Goran Nikolic
写真 Branko Jovanovic, Dragana Bosnic
編集 Jasmina Novic
文 文 Jasmina Novic
編集者 Gordana Primac
www.srbija.travel
E-mail: office@srbija.travel
Tel: +381 11 6557 100
Fax: +381 11 2026 767
Cika Ljubina 8, 11000 Beograd
セルビア観光局

セルビア

修道院マップ

セルビア観光局

凡例

- | | | | |
|--------------|-------------|--------------|------|
| 国境通過点(陸上、河川) | 国境 | NIŠ | 都市 |
| 州境 | 州境 | BRUS | 地方都市 |
| 高速自動車道 | 高速自動車道(建設中) | 河川、湖沼 | |
| 主要幹線道路(標識) | 距離(km) | 修道院 | |
| 幹線道路 | | Transromania | |
| 鉄道 | | UNESCO世界文化遺産 | |
| 集落 | | | |

R-1:800 000

主な修道院一覧

国宝・重要文化財



・共和国文化財保護委員会作成